2009 年 7 月 30 日

杉並区教育長　井出隆安　殿
杉並区教育委員各位　殿

元杉並区立中学校社会科教員有志

教科書採択に関する要請書

私たちは、杉並区立中学校で社会科を教えてきた元教員です。杉並区の知的で自由な雰囲気のもと、よりよい授業をめざし、教育実践をすすめてこれたことは 私たちの喜びであり誇りでした。教科書採択においては、子どもたちがよりわか りやすい教科書をと望む教員の意見が採択に反映されてきました。このような環 境で育つ杉並区の子どもたちの教育水準、知的関心は高いものでした。

しかし、2005 年に、保護者、区民、教員の意見は無視され、扶桑社版歴史教科書が採択されました。歴史研究者・歴史教育者はじめ、国内外の批判をうけ、多くの地区から退けられた扶桑社版を他ならぬ杉並区が採択したことに私たちは驚き、心配し、危惧を感じてきました。

今夏、教科書採択時期を迎え、貴教育委員会に以下のことを要請します。

要請主旨

扶桑社版中学校歴史、ならびに公民教科書、および、自由社版歴史教科書を採択しないで下さい。

要請理由

一、戦後の学問研究の成果を無視し、非学問的（非科学的）な記述がなされています。神話と史実を混同するような記述もあり、生徒は混乱させられます。アジア太平洋戦争を当時の名称どおり「大東亜戦争」と記していますが、国際的には通用しない表現です。
中心執筆者の藤岡信勝氏は教育学者、西尾幹二氏はドイツ文学者で歴史学の専門家ではありません。戦後の学問研究の成果に依拠できていないため、俗説でお茶を濁している箇所が多々あります。杉並の中学生の知的関心を下げる教科書です。

二、歴史から考えるのでなく、結論を押しつける教科書です。
歴史的事実を学ぶなかで、考える機会とするのではなく、断定し、結論を押しつける表現が多いことも扶桑社版、及び、自由社版の特色です。ひとつの歴史的事実から、当時の社会について想像し、考察するなかで、現代社会を読み解く知恵を身につけていく学習こそ大切です。結論を押しつける教科書は、中学生の教科書として、ふさわしくありません。

三、扶桑社版教科書は発行社自ら「内容が右寄り過ぎ」と言い、執筆陣が分裂した欠陥教科書です。

扶桑社社長自ら、「各地の教育委員会の評価は低く、内容が右寄り過ぎて採択がとれない」として、「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）による教科書の作成の終了を宣言しました。発行社自ら欠陥教科書と認めたことです。教科書編集をした「つくる会」は分裂し、前会長（八木秀次氏）と現会長（藤岡信勝氏）の対立は深まり裁判沙汰も起こり、藤岡氏は自由社から教科書を発行しました。
欠陥教科書である上に、対立と抗争にゆれる教科書を採択することは、杉並区教育委員会の責任が問われる重大問題です。

四、自由社版歴史教科書は、執筆者の内紛、抗争から誕生したコピー教科書です。
上記「新しい歴史教科書をつくる会」の分裂・抗争の結果、現会長の藤岡信勝氏は、自由社から『新編　新しい歴史教科書』を発行しました。その内容は 90%近く扶桑社版と同じであり、さらに以下のような問題が指摘されています。
①ルビ（ふりがな）が極端に小さく読みずらく、フォント（字体）も不統一。
②近隣諸国の人名については、他社版は日本語読みに加えて原語読みに近い読み方をカタカナで示しているが、自由社版は日本語読みしか掲載していません。
③多くの校正ミスがあります。
「二・二六事件」が「二・二六事件事件」となっているなど、信じられないような校正ミスが幾箇所もあり、拙速につくったことが明らかです。

五、政治的目的のために出版された教科書とは絶縁し、教員の声を活かした子どものための教科書を。
殆ど採択されない中、対立と抗争を続けながら、両社から教科書が発行されています。通常では考えられない発行形態であり、教科書に名を借りた政治運 動です。そのような教科書を採択することは、結果的に杉並の子ども達を抗争に巻き込むことであり、厳に慎むべきです。

　杉並区はながく教科書採択は現場教職員の意見を活かし、高い教育水準を誇ってきました。扶桑社版教科書が採択されたことで、教科書の質は低下し、それをカバーするための教員の負担も過重となっています。また、教科書準拠の問題集の質の低さは生徒の学習資料としては使えず、中学生の学習に明らかにマイナスとなっています。
　私たちは、杉並で中学生を教えてきた教員として、杉並の子ども達の成長を願っています。貴教育委員会が扶桑社版、自由社版という、教育というより政治的な思惑が優先されるような教科書を継続使用することなく、子どもの成長を第一に考え、原水爆禁止運動発祥の地にふさわしい教科書を採択されるよう強く要請します。